魔法先生ネギま！　例のやつがやってきた？

ハテナーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法先生ネギま！　例のやつがやってきた？

【Ｎコード】
Ｎ８３１２Ｘ

【作者名】
ハテナーナ

【あらすじ】
麻帆良学園にとある人物がやってきた
そいつは裏では有名な最強防御魔術師

とりあえずキャラ設定その１（前書き）

映画化記念（一ヶ月以上経過しているが）なので投稿

とりあえずキャラ設定その１

八樹（はちじゅ）　２６歳　誕生日　１１月３日

本編の主人公　無詠唱で魔法を使えるが本職はあくまで剣士

近衛木乃香と桜咲刹那とは知り合い関係　何故そうなったかは後々

魔法学校に通っていたが五ヶ月で中退

その後独学で魔法を覚える

だが中学生になってから６年近く魔法を封印したためかなり弱くなった

出身は岡山県　瀬流彦先生とは結構仲がいい

ちなみに魔法は７７７個覚えているが６００個はまったく役に立たない魔法である　（たとえば白紙を一瞬で黒くする魔法とか）

ハテル・テル　誕生日　１０月２９日

こんな名前だがこれでも日本人そして八樹の幼馴染

独学で魔法を覚えたある意味すごいやつ

かなり強力な炎魔術師でエヴァンジェリンに匹敵する強さを持つ

魔法使い連合会議？　（前書き）

ＰＣ不調のため短め

魔法使い連合会議？

世界樹前　六時ごろ

瀬流彦ＳＩＤＥ

え～っと今日から配属される魔法使いが一人きたみたいだから
だけどこんな時期に珍しいね　もうすぐ期末テストが始まるのに
まぁ僕はたいした魔法はつかえないけど　配属される人はかなりすごい魔法使いらしい
ちなみにここには今は人払いの札を貼っているから魔法関係者以外はだれもいない

「え～　さてこの学園にやってきた魔法使いを紹介するかの」
学園長先生がやってきた　つれてこられた人は僕の知り合いのようだね

「では自己紹介を」

「あ～　あ～　俺の名は八樹だ　とりあえず宜しくお願いします」
彼の名前を聞いてみんなが騒ぎ出す　そりゃあ彼は有名人だからね

特に桜咲さんが驚いていた　まぁ彼女は八樹とは知り合いだったらしいからね

「では今日はこれにて解散じゃ」

学園長の言葉によって解散　人払いの札もなくなったようで生徒たちが
わらわらと集まってきた

学園長室

八樹ＳＩＤＥ

ここは学園長室　何故呼ばれたかって？　バイト生活とか色々と楽しんでいるときに突然

「この学園で教師をやってくれんかの？」って携帯に電話がかかってくるんだぜ？

おまえはどこで俺の携帯の番号を知ったんだよ

ちなみに学園長室には俺と学園長そして高畑先生の三人がいる

高畑先生は魔法界ではかなりなやつだったらしい

「して八樹君には２－Ａの副担任をやってもらうとする」

「まぁかまいませんよ」

「あと何か得意科目とかはあるかの？」

「国語以外なら基本得意ですが　教えるとなると数学以外は無理ですね」

国語以外は毎回満点なんだよな　国語は半分くらいだが

「なら数学の教師になってもらうかの」

「了解」

こうして俺は数学担当の２－Ａ副担任となった　高畑先生は空気だったけど

初授業？

八樹ＳＩＤＥ

ときはとんで授業当日

「いよいよですね」

「まぁそうですね　変わったクラスだと瀬流彦先生から聞きましたし」

ちなみに中等部女子２－Ａのやつらに知り合いは少しいるんだよな

ちなみに一緒にきてくれたのは高畑先生　Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ　だな

いよいよ教室　ドアには黒板消しが

「ハハハこんな古典的な罠があるとはな……」

隙間から覗いてみると明らかに黒板消しが頭に落ちてそれで動転してロープでこけさせてバケツに頭が入って教卓までくるくるなってぶつかり生徒に笑われるか……

ひどいクラスだなおい！

「まあ　こういうクラスだからねウチは」

とりあえず黒板消しは取っておいて

ガラガラガラー

龍宮真名ＳＩＤＥ

噂の魔法使いの教師が来たか……

黒板消しの罠を回避しロープをジャンプでかわしそのまま教壇につくとは

なかなかやるようだな

「あ～　この件については置いといて自己紹介をしておこう
名は八樹　一応数学教師となった　このクラスの副担任であって教師免許はない　以上」

そんなことを言っていいのか……？

「質問はＳＨＲ内までなら聞いてやる　今のうちに聞いておくことだな」

そういった瞬間クラスは騒がしくなった

先生はどこからやってきたかとか

彼女はいるのかとか

好きな食べ物とか嫌いな食べ物とかなどなど

ま、私は興味はないがな

八樹ＳＩＤＥ

チャイムが鳴り　とりあえず俺は教室を出る　一時間目は高畑先生

が授業だからな

俺は２－Ｆだけど　２－Ａは五時間目だな　授業はこの二回だけ
楽だな～

明日は全時間だけどな

ま、がんばるか

二学期期末テスト　（前書き）

次回くらいにネギ登場予定

そして次回くらいから真面目に書こう

二学期期末テスト

八樹ＳＩＤＥ

時は飛んで　期末テスト一週間前

予想通りだがみんなやる気なし

ついさっき小テストを行い採点が終わった

結果は一位は超鈴音の１００点
二位は葉加瀬聡美の９９点
三位は雪広あやかの９８点
四位は宮崎のどかの９６点
五位は朝倉和美の９５点
六位に近衛木乃香の９２点

ここまでが九十点台

ちなみにワースト６は

桜咲刹那とＺａｚｉｅ　Ｒａｉｎｙｄａｙの４２点

ギリギリ欠点じゃないレベルだな

のこりはバカレンジャーと呼ばれている５人衆

一番悪いのは神楽坂明日菜だが

まぁこいつは高畑先生の補習目的でわざと悪い点数を取っているとか……

それはいいとしてこのままだと最下位確実

ま、最下位でも怒られたりはしないと思うし気楽にやろう

「今更だが　せめて最下位脱出のため今からやる小テストで６０点以下のやつは放課後鬼の補習を行う

文句は聞かんぞ！」

ええ～！？と上がる声　そう言うやつにかぎって勉強ができないのが普通だが

成績優秀の朝倉とか一応合格レベルの鳴滝姉妹もええ～！？といっていた

お前らレベルなら合格できると思うから大丈夫だ

「なら配るぞ　結果は高畑先生配ってくれる」

そうして配る

ちなみにみんなのテスト中に俺は何故か社会のテストを作成

担当の先生が俺と入れ替わりで辞めやがったから変わりに俺が作らされるハメに

そして放課後

意外と合格したようで残りはバカレンジャーの5人衆だけだった

「えっと　これより補習を行う　二十点満点のテストで八割以上の点数で合格だ　できるまで付き合うからな」

「え～っと先生！」

「なんだ？　佐々木よ？」

「八割って何点以上のことですか？」

割合くらいわかれよ　小学生レベルだぞ！？

とりあえず言えることは　こいつらを底上げするのは大変だということだ

その後期末テストが行われてかろうじてワースト3位に滑り込んだ

二学期期末テスト　（後書き）

次回からは真面目に……かけると思う

ネギ登場

八樹ＳＩＤＥ

２－Ａ天井裏

三学期開始早々天井裏にいる２－Ａの副担任

何で天井裏にいるかって？

どうせ２－Ａでは罠が張られるんだし

新米教師にかかってもらおうという考えだ

たしかサウザンドマスターの息子だったはず

ちなみに冬休みの間は生徒と仲良くなる努力をした

一部以外は仲良く話せるレベルに

あとは遠当ての練習だな　がんばって俺の知り合いレベルまで練習した

覗くために天井に穴を空けた　後で直すけど

「失礼しま……」

来たようだ　しづな先生の同伴で

そして黒板消しの罠がやってくる

ボフッ　一瞬止めて結局かぶってしまったようだ

「あらあら」

「ゲホゲホ　いやーあはは　なるほどゲホ　ひっかかっちゃったなあコホ」

そして第二の罠　「へぶっ！？」ロープでこけて「あぼ！」水入りバケツが落ちて「うわあああぁぁぁ」矢が飛んできて

「ギャフン」教卓に激突と

『『『アハハハ！！！』』』

クラスの大半が笑っていた

「えっ？」

「あれ？」

ちなみに新任教師は数えで１０歳だったはず

「えーっ！　子供！？」

「君、大丈夫！？」

「ゴメン！　てっきり新任教師だと思って！」

こいつが新任教師なんだけどな

「いいえ　その子があなたたちの新しい担任よ　八樹先生は副担任のままだけど
とりあえず自己紹介をしてね　ネギ君」

「ハ、ハイ」

たしかこいつはネギ・スプリングフィールドで得意魔法は風だったはずだ

「え、えと　あの……ボク……ボク……
今日からこの学校でまほ……英語を教えることになりました
ネギ・スプリングフィールドです
３学期の間だけですけどよろしくお願いします」

魔法と言いかけたことに関してはスルーする

「キャアァァァ！」

「かわいい！」

一応歓迎されてるようだ

ネギ歓迎会（前書き）

そろそろ魔法を出さないとな

ネギ歓迎会

八樹ＳＩＤＥ

とりあえずネギ先生の授業はｇｄｇｄになった

そしてネギ先生の歓迎会用のクラッカーを買いに行かされた

生徒にパシリされる教師とか聞いたことないぞ

一応買ったからいいけどさ

「ほらよ　買ってきたぞ」

「サンキュー」

そして一部の生徒にタメ口で話されるようになった

ちなみに今のは明石裕奈だけど

ちなみにネギ先生はさっき見たし　もう来るだろう

「あとちょっとで来ると思うから準備しとけよ！」

『『『おおー！！！』』』

数分後

「早速実行よ　荷物とってくるからちょっとそこで・・・・」

何を実行するんだよ？

『ようこそ！』

『ネギ先生！』

ようやく主人公であるネギ先生登場

「あ……そーだ　今日あなたの歓迎会するんだっけ……　忘れてた！」

「えー！！」

えー！！はこっちだよ　忘れんなよ大事なことなのにさ

歓迎会は順調に進んだ

肝心のネギ先生は高畑先生に読心術を使ってたようだが　あの先生に読心術はきかないと思う

次の日の夜

trrrrrrr

「はい　こちらは八樹」

『八樹か、ようやく倒したぞ　お前の家の近くにいたドラゴン』

「おお　やっとか　サンキュー　ハテル」

ハテルと俺のもう一人の幼馴染のＪ・Ｍ（ジェンソン・マルケス）に上級種の龍を倒してもらった

最近俺の家（当然魔法世界の）に龍が大量にやってくるんだよね

というわけでこの二人を魔法世界に送り込んだ

冬休みに龍宮や刹那を連れて行ったんだけどまだいるようだな

ちなみにＪ・Ｍは最上級の回復魔法を覚えているからあっちの世界では最強の治療師と呼ばれている

強さＡのネギ先生レベルだけどね　あいつ攻撃技ほとんどないし

ちなみに俺はＳＢでハテルはＳＣ

『とりあえず　しばらくしたら旧世界に戻るぞ』

「おお　いつぐらいに戻れるか？」

『お前らの学校で修学旅行が始まるくらいの時間かな？』

「遅いな！？　おい！」

惚れ薬編？

放課後

八樹ＳＩＤＥ

そこらへんを歩いていたらネギ先生発見

声をかけようと思ったら図書館探検部の三人が先に声をかけた

ちなみに宮崎のどかはたしか恥ずかしがりやだったが木乃香嬢によって俺は話せるようになった

ちなみにかなり離れているから会話は聞こえないので近づく

「ふぅ　どーしよ――――――ん？」

何かが出てきたようだ　あれはたしか魔法の素丸薬七色セット大人用

「これさえあればホレ薬みたいなのが作れるかも！！」

惚れ薬は犯罪なんだけどな　どうでもいいしほっておこう

数分後　学園の警備をすることに

そして２－Ａの教室を覗くと神楽坂によってネギ先生がホレ薬を飲んじゃった

「ネギ君ってよく見るとなんかスゴクかわえーなー」

どうやら木乃香嬢が一番の被害者となった

「ちょちょっと何をやってるんですかこのかさん！？」

いいんちょうが第二被害者になりそうだ　まぁこいつはもともと愛してるそうだからいいけど

「先生どうぞコレを・・・・」

どこからか花束を出した

ちなみに何故か神楽坂には効かない

こいつアレがあるのか？

「はいぬぎぬぎしましょうね――」

「ああ――やめっ　　やめてくださいーっ！」

これがいわゆる自業自得というやつだな

そしてカオスになってきそうだから退却　とりあえず図書館あたりに

図書館前の扉

鍵がかかっているね

そしてネギ先生に先を越されてしまった

「きゃあっ」

転落？

「いてて　だ……大丈夫？宮崎さん」

「「あ……」」

「よぉ神楽坂よ　中が大変なことになってるよ」

「ええ！？　どんなことに！？」

「もうちょっとでキスするだろうな　惚れ薬の効果が切れるまでま、あの量ならあと少しできれると思うよ」

「へぇ　結構詳しいのね」

「そりゃあ　魔法使いだからさ」

「えええ！？」

「いや驚くことじゃないだろ？　ネギ先生だって魔法使いだし　それよりはやく助けてやれ」

遠当て練習（前書き）

オリジナル物語　そしてオリジナル技を使用

遠当て練習

冬休み中

八樹ＳＩＤＥ

俺はとあるやつらに言わなければいけないことがある

「ゴハァ！？」

開始早々殴られた　遠当てで

こんなことできるのは俺の知ってるやつだと

豪徳寺か中村のどっちかだ

「おい！　だれだ今のは！　豪徳寺か中村だって事はもうわかってるぞ」

必殺　影移動

「ほい　到着」

「おおい！？　どこから来たんだよ！？」

「というわけで　どっちがやった？」

「豪徳寺だったはずだが」

「ほうほうそうかそうか　なら覚悟しときな　烈空弾！」

俺の作った遠当てその４　命中率が高めだが大して強くない　ちなみに８つ作った

「ぐほぁ！？」

どうでもいいが何故こいつらとつるんでいるかと言うと

遠当てその８を製作中に中村の遠当てを食らってしまい２秒意識が飛んだ

そして遠当て仲間ということで仲良くなった

「っ！　痛えな　漢魂！」

「負けるかよ！　砲劉覇！」

遠当てその１　威力重視のため　意外とあたらないが今回は当たった

「へえ　やるねえ　昨日は命中率が格段に低かったのにな」

「修行してるんだよ　ちゃんと」

こっちの一時間が向こうで一日になる別荘で

「というか明日ちょっと旅立つからそれを伝えたいだけだ　よって

しばらくは練習に参加しない」

「おい　マジかよ！」

遠当て練習（後書き）

八樹「第一回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「おおー！！」

山下「おー」

八樹「ちなみにメンバーは俺プラスこの二人とゲスト一人だが今回は第一回だしまだあの女子たちとほとんど接触してないからゲストはなしだ」

山下「とりあえず遠当てはスルーして影移動の解説をしよう」

八樹「これはまぁ　瞬動の下位技だな」

豪徳寺「影のないところからあるところにしか移動できないしオマケに夜はほとんどつかえないからな」

八樹「とりあえず今回は解説終了　中村や大豪院は後々に出ると思うよ」

八樹の魔法、武術設定

八樹「第二回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「しかも拡張版だってよ！」

山下「早くない！？」

八樹「だってまだ魔法でてないんだぜ？」

山下「たしかにそうだけど……」

豪徳寺「じゃあ　まずは魔法の紹介だ」

魔力　大体木乃香より少し少ないくらい

主に使う魔法は防御系

そして呪文詠唱時によく噛んでしまうので無詠唱主義

始動キーは　リモート・フォート・ローレック

適当に作ったので忘れかけている

攻撃魔法はほとんど使えない　魔法の射手も１５本が限界

本人曰く弱点は雷系魔法

得意魔法は炎

銃も龍宮真名ほどじゃないがかなりの腕前

防御系魔法

真空壁

炎系魔法しか防げないどうでもいい魔法

亜空の筒

相手の攻撃をそのまま返す強い技だが何故か氷系魔法には使えない
あと魔法にしか使えない

絶対防御

ほとんどの攻撃を防げる最強？な技　しかしこの技を展開中はほかの魔法を使えず
自分も動けない

などなど

豪徳寺「魔法の紹介少ないな！」

八樹「こんくらいしか思いつかなかったんだ」

山下「じゃあ次は武術系だな」

遠当て全８種類

説明省略

爆砕砲

右手に気を溜めて一気に放つ技

運がよければ学校ひとつくらいは焼け野原にできる

真硫連撃

爆砕砲の左手バージョン

こっちのほうが若干強い

スロー速拳

別名　遅痛拳

とてつもない速さで相手を殴る

この技によるダメージは２秒後に発生する

これは居合い拳を参考にして作った

などなど

豪徳寺「また短っ！」

八樹「これくらいしか思いつかないんだってさ」

山下「ひどい作者だな　というかゲストはどうしたんだ？」

八樹「まだほとんどのやつと接触してないからまだなしだ」

豪徳寺「期末テストでかなり空いてしまったからな　ちなみに昨日終わったそうだ」

八樹「凡ミスばかりしたって嘆いたけどね　まあおまけとしてハテルのキャラ設定とＪ・Ｍの紹介でもしよう　まずはハテルのほうだ」

魔法系

炎系まほうしか使えない

魔法の射手は５０本を無詠唱でいける（当然炎限定）

始動キーは　ファイヤー・ロック・ホート・マステギー

八樹と仮契約をしている

称号は無限の炎の戦士

技

地獄火（ヘルファイヤー）

一応本人の中で最強技

紫色の炎を手に出して投げつける　最大は直径１００ｍだが普通はそんなに大きくない

炎の壁

風系魔法を使われると一瞬で消えてしまうがそれ以外は基本防げる

Ｊ・Ｍ

これでも魔法世界では超有名な治療師

基本どんな怪我でも治せるが打撲だけは直せない

あと当然ながら死人を蘇生するなんてできるわけないよ

雷の下位魔法も使えるがあまり強くない

八樹と仮契約をしている
称号は回復のスーパースター

始動キー　ヒール・ヒーラック・ホーリック

技は省略

八樹「以上　紹介終了！　次は多分吸血鬼編だな」

山下「ずいぶんと飛ぶんだね」

八樹「どうせ学年末編はネギのやつが勝手に解決させちゃうんだし
　木乃香編は後に番外編としてやることにしたし」

豪徳寺「んじゃな」

桜通りの吸血鬼（前書き）

八樹「うわ　やっべ！」」

豪徳寺「どうしたんだ？」

八樹「魔法より剣術の方が得意なのに紹介し忘れたという」

山下「じゃあ紹介しないと」

主に使用する武器

柳葉刀　クレイモア　長柄刀　メイルブレーカー　フランベルジェ

一週間だけ神鳴流に入っていた

斬空閃

空間を切る危険すぎる技

真空刃

適当に作ったかまいたちを相手に投げつける

トルネードソード

両手に剣を持って回転し、竜巻を起こす

若干風の魔法を使用

などなど

桜通りの吸血鬼

八樹ＳＩＤＥ

新学期の夜

いよいよ3年　ネギの野郎が正式な担任となり俺は副担任から降ろされた

まあ数学は教えるけどね

それはどうでもいいけど問題は吸血鬼の事件なんだよな

記念すべき最初の犠牲者はまき絵か

犯人は間違いなく真租のエヴァンジェリン・Ａ・Ｋ・マグダウェルだろう

俺はあえて微妙なアタナシアと呼んでいるが　とある訳があってね

そして桜通りに来ると結構カオスなことになっていた

「何があったんだよ？」

ほぼ裸ののどかと木乃香嬢と明日菜（名字言いにくいから名前で呼ぶことにした）

おそらく武装解除されたな　ネギのやつはレジストはしたようだが

「ええっとそれが……」

とりあえずのどかを明日菜、木乃香嬢が部屋に運んでくれた

俺は一応ネギの野郎の救出へ行くことにする

とある建物の上

「おまえの親父・・・・　すなわち・・・・『サウザンド・マスター』のことか　ふふ・・・・」

ああ、ナギさんのことか　さりげなく俺の先祖の七樹が紅き翼の一

員だったりする

もう死んだけど　紹介はのちのちにする

「あと　八樹！　隠れてないで出て来い！」

おおっと　俺の存在はばれてるようだった

「へいへい　でりゃあいいんでしょ」

「ええ！？　八樹先生って「魔法使いだから安心しろ　サウザンドマスターの息子のネギ・スプリングフィールド　あと先生はつけずに気軽に八樹とでも呼んでくれ」どうして父さんのことを！？」

「それについては後に話す　それよりそこの吸血鬼をどうにかしないといけないんじゃないか？」

「え……えっと・・・・とにかく！　魔力もなくマントも触媒もないあなたに勝ち目はないですよ！

素直に……」

いや、こいつには茶々丸がいたから今のお前には無理だろう

「・・・・これで勝ったつもりなのか？」

上の屋根から茶々丸登場

「さあ　お前の得意な呪文を唱えてみるがいい」

魔法使いの弱点　呪文詠唱中に攻撃を食らうと魔法を発動できない

「風の精霊１１人縛鎖となりて敵を捕まえろ」

「ふ・・」

茶々丸が動く

「サギ・・あたっ」

茶々丸によるデコピンで魔法が発動できず

「あたた？　えっあっれ！？　き、君はウチのクラスの・・・・」

「紹介しよう　私のパートナー　３－Ａ出席番号１０番　魔法使いの従者　絡繰　茶々丸だ」

意外と最近にできたロボットだそうだ　その前はチャチャゼロだったが　あいつ今は動けないはずだ

「え・・なっ・・！？　ええ～！？　茶々丸さんがあなたのパートナー！？」

「そうだ　パートナーのいないお前では私には勝てんぞ」

俺はいるけどね

「な・・・・パ、パートナーくらいいなくたって　風の精霊１１人・・」

ネギが呪文詠唱をした瞬間茶々丸が動く

そして普通に頬っぺたをつねられている

「見事なやられっぷりだなネギよ」

「元々『魔法使いの従者』は戦いのための道具だ
我々魔法使いは呪文詠唱中　完全に無防備となり攻撃を受ければ呪文は完成できない」

「もっとも俺は無詠唱主義だし　従者がいなくても十分やれるからいいけど
本来はそれを盾にとなり剣となって守護するのが従者の本来の使命だそうだ」

「つまり・・・・パートナーのいないお前は我々3人には勝てないということさ」

「おい！　勝手に俺を入れないでくれ　あくまで俺はお前の敵だぞ」

「フン　冗談だ」

つっても俺は茶々丸に勝てたことがないので抵抗はできんのだが

「申し訳ありません　ネギ先生」

茶々丸がネギの首をつかむ　ちなみにアナタシアはナギさんに登校地獄ののろいをかけられて

15年も中学生をやっているそうだ　かわいそうに　まあ俺もがんばれば解けると思うけど

そうこう言っている内にアナタシアがネギの血を吸い始めた　さあてどうする？

「いいのですか？八樹先生？」

「なんだ？茶々丸」

「ネギ先生を助けなくても」

「いや大丈夫だろう　ほらな」

そういって後ろを指差す

「こらー！　この変質者どもー！　ウチの居候に何すんのよー！」

明日菜登場　たしかアナタシアは魔法障壁を常に展開してなかったっけ？

やっぱり明日菜はアレをもってるのか？

「か、神楽坂　明日菜！？」

「あっあれー？」

結構驚いてるようだ

「あんた達はウチのクラスの・・・　ちょっ　どういうことよ！？」

そりゃあこの二人が犯人だからね

「ま・・まさかあんた達が今回の事件の犯人なの！？
しかも二人がかりで子供をイジめるような真似をして・・・・
――――答えによってはタダじゃすまないわよ！」

「ぐっ・・・・よくも私の顔を足蹴にしてくれたな神楽坂明日菜・・
・・　お　覚えとけよ～」

どっかの悪役が言うようなセリフを言ってアナタシアと茶々丸は帰
っていった

八樹の父の過去（前書き）

またまた少し飛んでエヴァが風邪と花粉症になったところらへんからスタート　ミスによって途切れたから　２０時より再更新する

八樹の父の過去

八樹ＳＩＤＥ

エヴァンジェリン、茶々丸家

なんでこんなとこにいるかって？　そりゃあとあるバカが風邪を引いたからだ

ちなみに何故か逮捕したはずのエロガモがやってきてネギのやつも完全復活した

何があったかは知らんが

「八樹先生そこの薬をとってください

「おおっと　ほらよ」

……カランコロン

ん？　誰か来たのか？

「なんか誰か来たし出てくるわ」

「誰かいませんか～？」

来訪者はネギのようだ

「よお　ちなみにエヴァンジェリンは風邪＋花粉症だからな　だろ？　茶々丸」

「ええ」

「ええ！？　不老かつ不死の彼女が風邪なんてひくわけが……」

いや、アナタシアは今は普通の１０歳と同じだし

「そのとおりだ」

普通に風邪引いてるよな？　ハァハァ言ってるし

「よく一人できたな　魔力が十分なくても　貴様ごときひよっこをくびり殺すコトくらいわけはないのだぞ？」

かなり自信はあるようだが魔力も封じられてるし風邪だし無理だと思う

「エ　エヴァンジェリンさん！？」

ネギのやつがアナタシアに何か渡す　ん？　果たし状……？

「なんだそれは？」

アナタシアのやつには分からなかったようだ

「はっ　果たし状ですっ！　僕ともう一度勝負してください！」

いやいや、はっきり言って今のお前がパートナーなしで勝てる確率は１．３％だぞ

「あ　あとちゃんとサボらずに学校に来てください！　このままだと卒業できませんよっ！」

「だから呪いのせいで卒業できないんだよ　まあいいここで決着をつけるか？　私は一向に構わないが？」

「……いいですよ　そのかわり僕が勝ったらちゃんと授業に出てくださいね！！」

そういってすぐにアナタシアは階段から落ちた　無理をするなよ

八樹の父の過去（後書き）

諸事情でここまで

八樹の父の過去はまた今度ということで（前書き）

だれか感想を書いてください　なんか０件が悲しいからください

そしてまた飛んで決戦エヴァンジェリン　三巻も今回で終わり

というか早く修学旅行編に行きたい

どうでもいいけど最近Ｍｉｎｅｃｒａｆｔの動画を見てやりたいけど　カード持ってないから買えないということでできない

八樹の父の過去はまた今度ということで

八樹ＳＩＤＥ

とある橋

夜８時あたりに学園全体は停電となった

アナタシアが動くのは今だろう

学園結界の封印が解ければかなり強くなる

と思う

たしかネギのやつは捕縛結界を仕掛けたようだが　前に俺がこいつらと戦ったときに

同じ作戦を使って結界解除プログラムとか発動されて……なことになった

「こおる大地！！」

おわっと　もうここまで来たのか

とりあえず空中から戦いを見させてもらおう

「あぐっ」

明らかにネギの方が劣勢だ

「ふ・・この橋は学園都市の端だ　私はのろいによって外には出られんピンチになれば学園外へにげればいい　か」

そういやここは学園都市の端だな

「・・意外にせこい作戦じゃないか　え？　先生？」

こりゃあ　助けたほうがいいかな？

ええっと始動キーは　っとやべ忘れた！

「な！？　こ　これは・・捕縛結界！？」

そういや捕縛結界仕掛けていたんだな　無駄だけど

「や・・やった――――っ　エへへへひっかかりましたねエヴァンジェリンさん！」

おまえにしては立派な作戦だと思うがこれじゃアナタシアには勝てんぞ

「もう動けませんよエヴァンジェリンさん　これで僕の勝ちです

さあ　おとなしく観念して　悪いことも　もうやめてくださいね！」

「……やるなあぼうや　感心したよ　ふ・・・・・アハハハハ」
アナタシアが笑い出す
「な　何がおかしいんですか　ご存知のようにこの結界にハマれば簡単には抜け出せませんよ！」
「そうだな　本来ならばここで私の負けだろう　茶々丸」
「ハイマスター」
おそらく結界解除プログラムを作動するのだろう　こりゃあ助けに行かないと
だが始動キー忘れたし　とりあえず体術と気でなんとかするか
「コラ――――――待ちなさい！！」
どうやらパートナーになったらしい　エロガモ（オコジョ）から聞いた話によるとね
「フン来たか　ぼうやのパートナー神楽坂明日菜」
「カモ！」
「合点　姐さん！　オコジョフラッシュ！！」
とりあえず茶々丸を切り抜ける明日菜
俺はその間に下におりる

「フン　たかが人間が私に触れることすらできんぞ」

だがしかし　明日菜の蹴りはヒットした

やっぱりアレを持っているとみて間違いないだろう

とある柱の影

「どうする？　一応気配を消す魔法を使っているが早くしないと気づかれるぜ？」

とりあえず二人と一匹？を柱の影に連れてきた

「アスナさんごめんなさい僕・・・・　僕　アスナさんに迷惑かけないようにって一人でがんばったのに・・・・・・・・ダメでした」

「ったく　子供なんだしもう少し頼ってもいいと思うのだが　特に俺とかさ　お前と同じ魔法先生なんだしさ　それに明日菜だって自分からきたんだし　迷惑とは思ってないだろ　な？」

一応明日菜に同意を求める

「そうよ　私が来たくて来たんだから迷惑でも何でもないの！　ホラ　協力するからチャッチャと問題児をどうにかするわよ！」

とりあえず協力してくれるようだ

「で・・・・どうするの？ネギ」

「アスナさん・・・・」

とりあえず仮契約するんだろうし魔方陣でも書いておこうか

たしかこうやってこう書いてこうやって……

「お願いします！　アスナさん　僕　あの人に勝たなきゃ！」

「そーこなくっちゃ！　兄貴　では姐さん！！」

「一応見ないでおくから勝手にやってくれ」

これで一応契約更新したらしいがこんなに光るんじゃああの二人には気づかれるよ

「むっ・・そこか！！」

そして二人は飛んでいた

「どうしたぼーや？　お姉ちゃんと八樹が助けに来てくれてホッと

一息か？」

「いや、俺はどちらかというと傍観者だし　最悪の場合は助けるが」

いよいよ戦いが始まる

「契約執行　９０秒間　ネギの従者　『神楽坂　明日菜』！！！」

契約執行　ま、普通はそれを使うよな

ネギとアナタシアは普通に魔法合戦だ

そして茶々丸ＶＳ明日菜はというと

想像以上に明日菜が強くてほぼ互角の戦いを繰り広げている

「さて　おまえはネギとエヴァンジェリンのどっちが勝つと思うカモよ？」

「うううぅ　俺っちはネギの兄貴にかけるぜ　そういう八樹の兄貴はどっちでい？」

「俺もネギのほうと言いたいが賭けが成立しないからエヴァンジェリンに賭けるわ」

「闇の吹雪！」

「雷の暴風！」

気が付けばお互いの使える最強のが使われていた

俺はアナタシアが勝つと思っていたが　なんとわずかの差でネギの方が僅差で勝っていたようで

雷の暴風がもろにヒットする

「やりおったな　小僧・・・・・　フフッ　期待通りだよ　さすがはやつの息子だ・・・・」

アナタシアはまだ戦えるようだ……が

「おい　茶々丸　たしか停電は予定より7分27秒早くなったはずだが……」

「…いけないマスター戻って！」

バシャバシャバシャ

停電が復旧しやがった

このままだとアナタシアおぼれるぞ

助けに行かないと

「ど　どうしたの！？」

「停電の復旧でエヴァンジェリンの封印が復活した　魔力がなければヤツは十歳のこどもと同じだ

おまけに泳げないし」

茶々丸と俺が助けにいこうとするが先にネギがたすけに行ったようだ
そして杖でとんでなんとか助けれたようだ　一応よかったよかった

「エへへ　さあこれでホントに僕の勝ちですよ　　もうこれで悪いことはやめて授業にもしっかりでてもらいますよ！」

「……わかったよ　確かに今日のはひとつ借りだな」

「よーし　名簿のところに僕が勝ったと書いておこう」

どこから出したんだその名簿は　それに洗脳した運動部四人に脱がされたはずだが　生き残っていたのか

まあ　とりあえずは一件落着だな

修学旅行初日　その１（前書き）

久しぶりに投稿なので色々ぶっ飛んでます

修学旅行初日　その１

八樹ＳＩＤＥ

まずここでやるのはこっちに帰ってきたとか言っていたハテルやＪ・Ｍに会うことだな

基本はネギ先生の護衛だが流石にこんな大勢いる中で敵が襲ってくることはないと思う

ちなみにだが三名が欠席となった　相坂さよは自縛霊だからいけないし（がんばったらつれてこれたが時間がなかったので無理でした）

あとはまあみんな分かるだろうし省略

ちなみに一日目はみんなで一斉に清水寺を見に行って後は自由だとか

俺は多分予定はないしいけるだろう

そしてみんなが清水寺を見学中に音羽の滝にでも行ったらなんか上の方に酒の入った樽があった

「何故あるんだ？」

幸いにも利用者はいなかったようで一応除去した

しかも狙ってるように縁結びの方に

？？？ＳＩＤＥ

くっ！　ここはどこだよ！？

ああ　空のだったな　我は……我？　いやいやわいは八樹の使い魔のドラゴニア・ナイムレス

ドラゴアって呼んでくれよな！

あと一応竜族の子供だ　一人称はわい二人称はユー　そいで今はハテルとかＪ・Ｍとかいうやつらに旧世界

につれてこられたって訳さ

「あー残念だがお前のＳＩＤＥもう終わりだからな」

「ハア！？　ちょっとどういうことだよ！　ハテルっち！」

八樹ＳＩＤＥ

ホテル嵐山

ちなみにどうでもいいがホテル嵐山は実在する

くわしくは各自で調べてくれ

『ひゃああ～～っ』

ん？この声は木乃香嬢の声？

まあ女子風呂だし刹那が助けてくれると思うから放っておこう

今日は特にやることがないから刹那と木乃香の過去話でもするか

絵本を読む風に

昔、昔、あるところ（京都ですよ）に近衛家がありました
その屋敷はとてもでかくていいんちょうの別荘レベルの大きさでした
そこに木乃香というヤツがいました
ったくあの堅物からこんなかわいいのが生まれたんだよ？　と、ツッコミたくなるくらいにきれいなお嬢さんでした　日本ではこういう人を大和撫子というんだよね～
そしてとある日に神鳴流から刹那というヤツが来ました
コレがいわゆる運命的な出会いってやつさ　ま、俺もいたんだけどね
木乃香嬢にとって刹那と俺は初の友達だったわけだ
刹那は剣道をやっていて恐い犬とかを追い払ってくれたり危ないときは守ってあげたりとかなりいいやつだ
今も守ってるんだけどね

そんなある日　木乃香嬢が川でおぼれてしまい刹那が一生懸命になって助けようとした

しかし二人とも川でおぼれてしまって　最終的には俺が助けた

「ったく　大丈夫か？　一応何故か毛布をもっていたから良かったが……」

このとき何故か毛布を持っていたんだ

「守れなくてごめんこのちゃん　ウチ　もっとつよおなる」

まだ子供だしそこまで強くならんでもいいのだがなとそのときは突っ込んでいたはずだ

「え――そんなんええよ・・・・　一緒に遊んでくれるだけで」

ま、俺はこの一ヵ月後に旅立ったんだけどね

一応その後は　刹那は剣の修行で木乃香嬢と遊ぶ時間が減ってしまい木乃香は麻帆良に引越し

刹那も中一の時に麻帆良に引越ししてきたが……ってわけだ

ドラゴニア・ナイムレスの設定

ドラゴニア・ナイムレス

普通の竜族のドラゴン　何故か八樹になついた

カモの脱獄を手伝ったためかなり仲がいい

八樹に言葉をしゃべれる魔法をかけられたためしゃべることができる、が少しミスを犯してしまい

関西弁になった

大きさ　カモの倍の大きいぐらい

技　ブレス中　普通のブレス　範囲はそんなに広くない

かまいたち　普通のかまいたち　言うほど強くない

フレイムウォーター　本人曰く自分の中では最強技　上位技であるハイドロバーニングを現在修行

中である

らいげき弱　普通の雷　本人曰く最弱技

ストロングクロー　爪に力を集中させて攻撃する　ストロング

とか書いてるわりに威力はない

気迫のオーラ　唯一の防御技　つってもほとんど無意味だったりする

戦いの旋律　何故か自分に使えない

八樹「とまあ　紹介も終わったし　字数稼ぎに何かしゃべるか　どうする？」

豪徳寺「どうすっか？」

山下「修学旅行編に入ったんだし京都について話してみたらどう？」

八樹「お！　それいただき！　じゃあシネマ村について話すか　正式名称は東映太秦映画村（とうえいうずまさえいがむら）だったはずだ」

山下「……」

豪徳寺「……続きは？」

八樹「…ない……もうあきらめて次回予告でもしよう

次回！　八樹がついに魔法を！？　そしてハテル達も動き始める

修学旅行編　パート２　お楽しみに！」

八樹の他人に対する呼び方（前書き）

今後のために作ってみた

八樹の他人に対する呼び方

3—A	生徒	
1	相坂さよ	幽霊または相坂
2	明石裕奈	ゆーなまたは裕菜
3	朝倉和美	朝倉
4	綾瀬夕映	夕映
5	和泉亜子	亜子
6	大河内アキラ	アキラ
7	柿崎美砂	柿崎（休日限定で美砂）
8	神楽坂明日菜	明日菜
9	春日美空	美空
10	絡繰茶々丸	茶々丸
11	釘宮円	釘宮
12	古菲	古

１３　近衛木乃香　木乃香嬢（本人の前では木乃香）
１４　早乙女ハルナ　ハルナ
１５　桜咲刹那　刹那
１６　佐々木まき絵　まき絵
１７　椎名桜子　桜子
１８　龍宮真名　龍宮
１９　超鈴音　超
２０　長瀬楓　楓
２１　那波千鶴　那波
２２　鳴滝風香　風香
２３　鳴滝史伽　史伽（二人合わせて呼ぶときは鳴滝姉妹）
２４　葉加瀬聡美　葉加瀬
２５　長谷川千雨　長谷川
２６　Ｅｖａｎｇｅｌｉｎｅ　Ａ．　Ｋ．　ＭｃＤｏｗｅｌｌ
アナタシア（みんなの前ではエヴァンジェリン）

２７　宮崎のどか　宮崎

２８　村上夏美　村上

２９　雪広あやか　いいんちょう

３０　四葉五月　五月

３１　Ｚａｚｉｅ　Ｒａｉｎｙｄａｙ　ザジ

教師

ネギ・スプリングフィールド　ネギ

近衛近右衛門　学園長

タカミチ・Ｔ・高畑　高畑先生（昔はタカミチ）

瀬流彦　瀬流彦先生　（休日はさんづけ）

ナギとその一行

ナギ・スプリングフィールド　ナギさん（心の中では）

近衛　詠春　詠春さん

ガトウ・カグラ・ヴァンデンバーグ　ガトウさん

アルビレオ・イマ　アル

ジャック・ラカン　ラカンさん

フィリウス・ゼクト　？？？

番外編　八樹の過去話（紅き翼）編　その１（前書き）

特に意味なく製作してみた　あと八樹の年齢を都合上変更した

そしてドラマＣＤからパクりまくった（というかドラマＣＤを元に作った）ので間違いがあるかもしれません　ちなみに次回はだいぶ先かな？

番外編　八樹の過去話（紅き翼）編　その１

とりあえずの風呂場

詠春「は～極楽極楽」

ゼクト「なかなかきもちのいい風呂じゃのう」

ナギ「ってあっち～！」

ガトウ「あいかわらず風呂が苦手なようだな　ナギ」

ナギ「苦手なんじゃねぇ！　嫌いなだけだ！」

八樹「ほとんど同じと思いますけど……？」

ナギ「うっせー！」

ジャック「ところで詠春　なんでめがねをかけたままなんだ？」

詠春「いやぁ、めがねがないと見えないんでな」

ジャック「そういや詠春のめがねをはずしたところ見たことねえな」

ナギ「確かに　見たことねえな」

タカミチ「僕も見てみたいです」

八樹「面白そうだな　俺も見てみたいな」

ジャック「おい詠春！　めがねはずしてみろよ」

詠春「な！？　やべっ！　めがねは絶対にはずさん！　これはいわゆる俺の一部だ！」

ナギ「っていわれるとはずさせたくなるよな～」

八樹「うんうん」

ジャック「となりゃあ」

ナギ「突撃ー！！」

詠春「っておい！　うわっ　やめろって！」

ナギ「いいからはずせ！」

詠春「うわ　やべっ！？」

ジャック「よっしゃ！　めがねゲット！」

詠春「ひーーー！？」

八樹「……」

ナギ「……って詠春おまえ……」

詠春「えっ？」

ナギ「やっぱめがね返すわ」

詠春「なんで？」

ナギ「いいからかけろって」

詠春「なんだよ急に」

ナギ「だ、だってよぉ」

ジャック「正直、めがねはずしたお前の顔は色っぽくて見てられん」

詠春「え？」

そんなこんなで明日への戦いに控えて少年の日に帰ったように仲間と楽しい日々を送った

そしてその夜　各自が材料を持ってきて詠春お得意の鍋を食すことになりましたっと

詠春「よーしみんな　ちゃんと材料は持ってきたか？」

ナギ「おう！　俺は最高級の肉を持ってきたぜ！」

タカミチ「僕は旧世界日本のおもちを持ってきましたよ」

八樹「俺はみんなに先を越されまくったから鍋用の魚を持ってきたぞ　生では食えないからな」

アルビレオ「私は新鮮な有機栽培の野菜を持ってきました　この今朝とれたネギなんかは鍋にぴったりですよ」

ナギ「ネギかぁ　俺、ネギは食えるけど芯はダメなんだ芯は　あっちぃしな」

ガトウ「俺は最高の豆腐を持ってきたぜ　なんでも旧世界じゃヘルシーな食材として親しまれているらしい」

ゼクト「わしはそこらに生えていたきのこを持ってきた」

八樹「いや、そんな怪しいもの持ってこないでくださいよ」

詠春「よし　みんな良い食材を持ちよったな　よし！　ここからは旧世界随一の料理人　詠春にお任せあれ！」

アルビレオ「でもまだラカンさんが来てませんが」

ガトウ「そういやクルトのやつも来てないな」

八樹「七樹（父）は別のところで遊んでいるけどね」

ナギ「いいじゃねえか　そもそも呼んでねーし　筋肉ダルマとすました眼鏡はほっといて先に始めよーぜ！」

ゼクト「よいのかのう？　あとでぐうたら言われても知らんぞ」

ナギ「んっふふっふ　この旧世界の鍋料理はたまんねえんだよなぁ」

詠春「おいナギ！　前も言ったが肉を先に入れるなよ」

ナギ「へいへい　分かってますよ料理人詠春様」

アルビレオ「ハッハッハ　詠春のように鍋にうるさい人を旧世界では鍋将軍と呼ぶそうですね」

ナギ「あ～でもやっぱもう我慢できねえ！」

八樹「あっ……」

ゼクト「肉を入れてしもうたの」

修学旅行初日　その２

八樹ＳＩＤＥ

無意味にエントランスにやってきた

刹那が何かしているようだが

「式神返しの結界？　何かあったのか？」

「え……ええ　実はさっきいろいろありまして」

刹那から事情を聞く　とりあえずなんか訳のわからない式神がやってきていろいろやりやがったそうだ

「あ」

「いたいた桜咲さん」

何故かネギと明日菜が来た

ハテルＳＩＤＥ

「Ｊ・Ｍはどこに行ったんだよ？　ドラゴア」

「知るか　そんなん　つーかわいが知りたいわ」

宿を見つけることができず野宿となった二人と一匹

「とりあえず　木を器用燃やして一時的な家でも作るか」

「勝手に燃やしてええんか？」

「大丈夫だって　ばれなきゃ」

こうして俺が木を燃やそうとしたとき

シュシュッ

何かが俺の前を通った

「何か通らなかったか？」

「奇遇やな　わいもそう思ったわ」

とりあえず何故か持っているヴィーキング・ソードを構えて今の通ったやつを追う

ちなみにヴィーキング・ソードとは、切断が目的の刀剣である。剣身の模様は蛇に似た表面処理が施されており、神秘的且つ魔力を備えたように見える。鋼がまだない時代であり、金属硬化により強度を持たせものの、戦闘中には刃は曲がる事もあった。

ヴィーキングソードは、北欧を中心に欧州に広まった。ヴィーキング、バイキングとも言われるが、正しい発音は「ヴィーキング」である。

それはさておきとっとと追うことにしよう

八樹ＳＩＤＥ

謎の３－Ａ防衛隊が結成された

そして俺は玄関を見張ることになったがぶっちゃけると敵に逃げられた

そして今は刹那とネギと明日菜と一緒に追いかけている

「ち・・しつこい人はきらわれますえ」

ちなみにこいつは天ヶ崎千草という人物

「あ　マズい　駅へ逃げ込むぞ」

「っていうか何よ　あのデカいサルは！？　着ぐるみ！？」

「いや、あれは関西呪術協会の呪符使いだったと思うぞ」

というかあれでよく動けるなとつくづく思う

「あの着ぐるみもただの着ぐるみではなさそうです　気をつけて！」

人がいないな　こりゃあ人払いの呪符があるな

とりあえず刹那が明日菜に人払いの呪符について説明中

そして俺達３－Ａ防衛隊は電車の中に入った

「うわっと間に合った」

「ネギ先生！　前の車両に追い詰めますよ！」

「待てーっ！」

「フフ・・・・ほな二枚目のお札ちゃんいきますえ」

あ、アレはちょいマズい

「お札さんお札さん　ウチを逃がせておくれやす」

ドパッ！

予想通り水攻めか　しかし予想外な速さで車内は水でいっぱいとなった

「ホホ・・・・車内でおぼれ死なんよーにな　ほな」

ぶっちゃけまずい状況　だが剣は旅館に置いてきたし　ネギはこんな中で魔法なんて唱えれるわけないし　刹那にがんばってもらわないとな

そうこうしてるうちに刹那が斬空閃をはなちドアをぶち破る

はぁ　このドアは俺が修理するんだろうな

「あれ～」

ようやく車内から脱出した俺達　この先どうなるだろうな

修学旅行初日　その２（後書き）

山下「そろそろゲストでも呼ぶ？」

八樹「そうだな　ぶっちゃけやることはないがゲストでも呼ぼうか　ちなみに豪徳寺は応援団の練習中だからいないぜ　今日のゲストはあの後どうなったか良く分からないフィリウス・ゼクトさんです！」

ゼクト「ずいぶんひどい紹介じゃのう」

八樹「別にいいじゃん　それしかないんだし　な？」

山下「結局何するの？」

八樹「めんどくさいし仮契約について話すかちなみに俺の仮契約したヤツは以下の人物だ」

ハテル・テル
Ｊ・Ｍ
？？？
？？？
？？？

ゼクト「ほお　五人と仮契約をしていたのじゃな」

山下「そのうち三人はまだ不明だけどね　次はどうする？」

八樹「もうネタがないよ　せっかく大物ゲストを呼んだのに　すま

んな

以上で終わりだ」

雑談！！

八樹「最近やることないな」

山下「そうだね　どうする？」

八樹「そうだな……豪徳寺もいないし今日は二人かな？」

山下「多分そうだろうね」

？？？「ちょっと待ったー！！」

八樹「Ｗｈｏ？」

２（セクンドゥム）「てめぇ！　俺を忘れんじゃねえよ！」

八樹「またまたすごいのがきたな　この調子でデュナミスでも呼ぶか　あーあー　デュナミス　さっさと来い！　あ？　お前とは敵だから無理だと？　知るか　これは敵も味方も関係ないんだよ！」

２「結局来るのか　あいつは」

八樹「色々あるから無理だってさ」

山下「というか２って消えたんじゃないの？」

八樹「いいんだよ　ちなみにゲストはこういう変なヤツしか呼ばないからな　多分」

山下「じゃあ　何をする？」

八樹「だいぶ先だが麻帆良祭の話でもしよう　これはネタばれの可能性ありだから飛ばしたい人は飛ばしてくださいな」

２「ほう　大体六ヶ月くらい先のことだな　しかもＩＳの方も更新してないし　遊戯王なんて二週間ごととかいいながらあのあと更新してないからな」

山下「ＩＳの方は来年から更新再開するって作者は考えてるらしい」

八樹「んじゃまず　武闘会には出るぞ　展開は結構オリジナル的だけど」

２「あの魔法ばんばん使っていた大会か」

山下「そうそう　カイザーナックルで殴られて一発Ｋ．Ｏ．されたあれだね」

八樹「じゃあ次はっとライブだな」

山下「でこぴんロケットのライブのことかな？」

八樹「おお　確かバカテスの方の小説でバンド組んでいる設定だったからそれを引き継いで
いわゆる顧問になることになった　もう言うことがないから麻帆良祭の話は終了だ」

２「次は何するんだ？」

八樹「さあ？　特にないからオリジナル設定の話でもするか
ぶっちゃけ豪徳寺以外山下他二名は部活に入っているか不明だから
勝手に部活を作ってみた」

山下「その部活とは？」

八樹「武術研究部ってことにしておいた　顧問は一応俺だ」

2「具体的には何をするんだ？」

八樹「その名のとおりの部活だ」

山下「じゃあ　次回予告をやるよ　結局魔法を使わなかった八樹
果たしていつ魔法を使うのか？
次回で修学旅行一日目終了！」

修学旅行初日　その３　（前書き）

どうせ意味ないけど感想制限をなくしました

修学旅行初日　その３

八樹ＳＩＤＥ

天ヶ崎は逃走を図った

「あ　待て！！」

「せ　刹那さん　一体どういうことですか！？」

「ただのいやがらせじゃなかったの！？　何であのおサル（？）このか一人を誘拐しようとするのよ！？」

「どうせ関西呪術協会の中に木乃香嬢を東の麻帆良学園へやったことを快く思わなかったやつがいるんだろ？　刹那」

「ええ　おそらくやつらはこのかお嬢様の力を利用して関西呪術協会を牛耳ろうとしているのでは・・・・」

「え・・・・？」

「な・・なんですかそれ～！？」

「私も八樹先生も学園長も甘かったといわざるえません」

確かに完全に油断した　まさかこんなことになるとはな

旅行中に襲ってくるとはね

「しかし元々関西呪術協会は裏の仕事請け負う組織このような強硬手段に出る者がいてもおかしくなかったのです」

「おっとここにも人払いがあるぞ？」

計画的な犯行と見て間違いないな

「くっ・・・・私がついていながら」

刹那が先に行った

「フフ・・　よーここまで追ってこれましたな」

「おサルが脱げた！？」

あんなでかいサルがいたら怖いよ

「そやけどそれもここまでですえ　三枚目のお札ちゃんいかせてもらえますえ」

おおっとこれはまずい

「させるか！」

刹那が止めにかかろうとするが……

「お札さん　お札さん　ウチを逃がしておくれやす　喰らいなはれ
三枚符術　京都大文字焼き」

おーおー　すごい技だねえ

「うあっ」

「桜咲さん！！」

これは流石にこいつらには荷が重いか？

「ホホホ　並みの術者ではその炎は越えられません　ほなさいなら」

これくらいなら俺は超えれるが　まあ、風の魔法はあんまり覚えてないしネギに任せよう

「ラス・テル・マ・スキル・マギステル！　吹け　一陣の風　風花風塵乱舞！！」

ネギの魔法で炎が消え去った

「な・・何や――」

「逃がしませんよ！！　このかさんは僕の生徒で・・・・大事な友達です！」

おお　いいこと言うねえ

「おい刹那　あっちに神鳴流の剣士がいるぞ」

なんか　さっき見えた

「本当ですか！？」

「ああ　マジだ」

「契約執行１８０秒間！！　ネギの従者　神楽坂明日菜！！」

「桜咲さん行くよ！」

みんな行った

ぶっちゃけ俺の出番はなさそうだな

と、俺はこのとき思っていた　しかし現実はそう甘くない

「おおっと　そうはさせないぜ　八樹」

この声はもしや……

「なんだ　カップラーメンも作れない石井和則（いしいかずのり）かよ」

石井和則　俺と仮契約したやつで　遠当て使いだ　ぶっちゃけ豪徳寺よりは弱い

俺の仮契約グループ内で最弱の存在で唯一の得意なことといえば

かなりタフなことだな

体力はかなり高いと思う

「それは言わないでくれ！」

そして無駄にテンションが高いやつだ

「で？　何故そっちの味方になった？」

「こっちにも事情があるんだよ！　行くぞ！」

「ああ　かかって来い！」

修学旅行初日　その３　（後書き）

豪徳寺「結局終わらなかったし　魔法も使わなかったな」

八樹「バカテスの更新で疲れたんだよ　まあ次回は確実に使う」

今年最後の雑談

八樹「いよいよ２０１１年も終わりだな」

豪徳寺「とは言ってもほとんど本編進んでないけどな」

山下「そうだね」

八樹「今日のゲストは前回呼べなかったデュナミスだ」

デュナミス「ふぅ　何故こんなことを……」

八樹「ぶっちゃけまたやることがないんだよね」

デュナミス「なら帰っていいか？」

豪徳寺「いやいや　だめだぞ」

山下「そうそう」

デュナミス「あー　わかったわかった」

八樹「じゃあ　なんかやるか　まずは新キャラの石井和則の紹介からだな」

石井和則　２３歳

昔は雑魚だったが　八樹と仮契約をした

山下「早くない！？　終わるの」

八樹「知るか　つーかそろそろ仮が終わる時期だから　とっととパートナーを選ばないといけないんだよな」

豪徳寺「なんか俺より弱いとか言っていたが」

デュナミス「ああ　魔法世界でなんかカードを見たと思えばこいつか」

八樹「なんだ　見たのか？」

デュナミス「それらしいやつをな　ま、無視したが。　八樹の仲間なら消しておけばよかったな」

八樹「消すなよ」

山下「まあ、落ち着きなって」

豪徳寺「それは置いといて　何をする？」

八樹「せっかくデュナミスをつれてきたし飯を大量に作ったから宴会でもするか」

デュナミス「おい、現実世界の飯は食えんぞ」

八樹「大丈夫大丈夫ちゃんとお前でも食える飯だから　多分ね」

デュナミス「今、たぶんとか言わなかったか？」
八樹「気のせいだ　さあて　飯の紹介だ」

クリームシチュー　４人前
コロッケ　およそ１０個
謎ジュース　１リットル
アシュレ　５人前
ソーセージ　５本
野菜炒め　２人前
珍ラーメン　？人前
魔法世界の肉を使ったハンバーグ　４人前
？？？からとったから揚げ　１７個
毒キノコのスープ　３人前

豪徳寺「謎ジュースって何だよ？」
八樹「簡単に言うとミックスジュースだな　旧世界のフルーツをほ

とんど使ったからな　はっきりいってあんまりおいしくない」

山下「じゃあ　珍ラーメンは？」

八樹「フカヒレとキャビアとフォアグラのいわゆる世界三大珍味を使用したラーメンだ」

デュナミス「とりあえず？？？とはなんだ？」

八樹「それは秘密だ　なかなかうまかったぞ」

豪徳寺「一番突っ込みたいのは毒キノコスープってなんだよ！」

八樹「ああ、　ツキヨタケを大量に使ったスープだ　ちゃんと魔法で毒は抜いてある　まあ、めちゃくちゃまずいが」

山下「まあ……いっか　じゃあいただきます」

豪徳寺「とりあえずいただきますっと」

バクバクムシャムシャ　しばらくは食事タイム

八樹「ふう　うまかったな」

デュナミス「不本意だがかなりうまかった」

八樹「一応ありがとな　じゃあ適当に飯を食ったし　最後の締めでもするか」

豪徳寺「それではみなさん」

山下「来年もこの小説をよろしく！」

デュナミス「我が出番はまだまだ先だろうけどな」

八樹「以上　今年最後の更新でした　さりげなくちょうど２０話だけどね」

修学旅行初日　その４（前書き）

今回は言うほど長くありません　ま、もともと短いけどな

修学旅行初日　その４

八樹ＳＩＤＥ

「爆焔弾！」

「おわっと　危ね！」

石井の攻撃をぎりぎりかわす

あれはどこかにぶつかると爆発する危険な技だ

前と比べると技にキレが出てきてる

「結構成長したじゃないか？」

「俺もあの後修行してきたんだよ」

そーか　よくがんばったと言っておこう

「たぁー！」

何が起こった？

あっちの戦いを見ると明日菜が猿鬼に攻撃した　あのアーティファクトは……

「おいおい　あれって……」

「ハマノツルギだな　俺も実物は見たのは初めてだと思う　それよりこっちはこっちで戦うぞ」

「うん？　ああそうだな」

あいつの技は爆焔弾と億炎奇と跋扈兎衷と斥候弾だったはずだ

「アデアット！」

おおっと　向こうが仮契約カードを使いやがったな

称号は忘れたが能力は確か　気を出せばどんな攻撃も防げるという反則級のカードのはずだ

３分２３秒しか使えないけどね

「ふ～　まずいなあ」

とりあえず気合で防御して効果が切れるのを待つしかない

「へぶっ」

あれ？

「おい　雇い主がやられたぞ」

刹那の百華なんちゃらかんちゃらで天ヶ崎がやられた

「あーあ　雇い主がやられちゃあ　戦いはできんな　あばよ！」

石井はどっかに消え去った

「こっちは無事に終わったが木乃香嬢は大丈夫だったか？」

「そういえばあいつ薬や呪符を使うとかいっていたな　このか姉さんは大丈夫か！」

見る限り寝ているだけだから無事だと思うが

「このかお嬢様！　お嬢様！　しっかりしてください！」

「ん・・・・」

おっと木乃香嬢が目覚めたようだ

「・・・・あれせっちゃん・・・・？」

そういや石井から何故あっちについているのか聞いていなかった

「そういや　八樹の兄貴　あの石井とかいうやつの知り合いか？」

「一応俺の仲間だ　何故あっち側についたかはわからんが」

こうして修学旅行一日目は終了した

修学旅行初日　その４（後書き）

次回から二日目

雑談！？

八樹「というわけでまた雑談だ」

山下「いやいやいや、最近雑談多いよね？」

八樹「ネタが思いつかんのだ　学園祭や魔法世界編はほぼできているというのに」

豪徳寺「何故そんなに後のやつができて修学旅行編ができないんだ？」

八樹「さあね　じゃあ今回のゲストは今更過ぎる中村達也だ」

中村「よっしゃ！　ようやく俺の出番だ！」

八樹「とは言ってもまたまたネタがないので石井和則のキャラ設定といこう」

石井和則　２３歳

遠当て使い　とある理由で八樹の仲間になった

主な技

爆焔弾　当たると爆発する　本人曰く最強技

億炎奇　炎の玉を相手にぶつける

跋扈兎衷　？？？

斥候弾　あんまり強くない

中村「見事に適当だな」

豪徳寺「たっちゃんの言う通りだな」

八樹「それはおいといて実を言うと俺は紅き翼から脱退した（七樹が死んで二ヶ月くらいで）後にとあるチームを作ったんだよな　チーム名は黒き霧だったはずだ今は解散状態だけど」

山下「ちなみにどれくらい活動していた？」

八樹「大体一年ちょっとかな　ちなみにメンバー全員と仮契約をしている」

豪徳寺「つーか仮契約って口付けしないといけないんだよな？」

中村「じゃあ　男同士でキスしたってことか！？」

八樹「さあて　どうだろうかな？」

山下「見事にスルーされたけど次にいこうか」

八樹「次はネタばれとして魔法世界編について話すか　ネタばれするやつなんて嫌いだ！　お気に入りから消してやる！　とかいう人

はどうぞ消してください」

中村「当然だけど俺たちって留守だよな？」

八樹「まあそうなるわな　多分な　ちなみに俺はみんな（白き翼）より早く魔法世界に行くぞ」

豪徳寺「何故だ？」

八樹「指名手配犯になりたくないからだ」

山下「それで早くいくんだね……」

八樹「一応ハテルとＪ・Ｍといっしょに行く予定だ　あとオリジナル魔法として現実から魔法世界に行く魔法を使っていくからな　とまあ話せる内容はこれくらいだな」

豪徳寺「おいおい　まだ終わるにははやいぞ？」

八樹「う～ん　何をしようか？　そうだな……オリジナルはバカテスで散々な目にあったからオリジナルは多分やらないからな～そうそう重大なことを言い忘れていた」

中村「重大なこととは？」

八樹「この話ではデュナミスが原作崩壊してるんだった」

山下「デュナミスってアーウェルンクスの仲間の」

八樹「そう　あれだ　ついでに作者の一番好きなキャラだったりす

る」

豪徳寺「えらくマイナー？なキャラが好きなんだな作者は」

八樹「それはバカテスとかＩＳとかＡｎｇｅｌ　Ｂｅａｔｓでも同じだぞ　作者は基本マイナーキャラが好きになることが多いらしい」

山下「そろそろ終わりじゃない？」

中村「そうだな　そろそろ頃合いだろ？」

八樹「ん～　そうだな　早いがこれで終わるか　ちなみに次の雑談はメジャーなゲストを呼ぶと思うぞ」

修学旅行編二日目その1

八樹ＳＩＤＥ

二日目　ネギ先生は5班と一緒にまわることになった

そして俺も何故か付き合わされた　何故かって？

そう、のどかの告白に付き合えとか言われてさ

それくらいはまあ、構わんのだが

そして場所は東大寺

ちなみに東大寺（とうだいじ）とは、奈良県奈良市雑司町にある華厳宗大本山の寺である。

金光明四天王護国之寺（こんこうみょうしてんのうごこくのてら）ともいい、奈良時代（8世紀）に聖武天皇が国力を尽くして建立した寺である。「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏（るしゃなぶつ）を本尊とし、開山（初代別当）は良弁僧正（ろうべんそうじょう）である。

奈良時代には中心堂宇の大仏殿（金堂）のほか、東西2つの七重塔（推定高さ約70メートル以上）を含む大伽藍が整備されたが、中世以降、2度の兵火で多くの建物を焼失した。現存する大仏は、台座（蓮華座）などの一部に当初の部分を残すのみであり、現存する大仏殿は江戸時代の18世紀初頭（元禄時代）の再建で、創建当時の堂に比べ、間口が3分の2に縮小されている。「大仏さん」の寺として、古代から現代に至るまで広い信仰を集め、日本の文化に多

大な影響を与えてきた寺院であり、聖武天皇が当時の日本の６０余か国に建立させた国分寺の中心をなす「総国分寺」と位置付けられた。

東大寺は１９９８年に古都奈良の文化財の一部として、ユネスコより世界遺産に登録されている。（ウィキペディアより抜粋）

「あっ・・　あの――　ネギ先生――ッ！」

「はい？」

おおっといよいよ来るか？

「先生――！！　わっ　わわ　わたし　大・・す・・すき・・」

かなりたどたどしいな　普通はこうだろうけど

「大仏が大好きで・・・・」

「へぇー　渋い趣味ですね」

あれれ？　というか何故大仏なんだよ？

それはさておき二人はおみくじをすることになった　ちなみに俺は小吉だった

「あのそのっ・・　私・・ネギ先生が　大・・大吉で・・・・！」

「あ　はい　おみくじ引きますか？」

「いえっじゃなくて――大吉が大好き・・いえ大仏・・・・」

「うえーん　大凶でした」

そしてまた告白できなかったのどか　しかも大凶なんてものを引くなよ　ネギ先生

「あ　宮崎さん　ホラ　大仏の鼻と同じ大きさの穴ですよ　くぐり抜けられれば頭が良くなったり願いがかなったりするそうです」

「えっ！？　願いが・・　やります！　くぐります！」

その穴なら前に一度くぐったことがある　え～っと確かこのとき何か願いがあったんだよな　なんだっけ？

「お　お尻がハマっちゃいましたぁっ」

「え――――っ！？」

ええ！？　あれにはまるやつなんか初めて見たぞ

「大丈夫ですか　引っ張りますから」

「へううーすいません先生」

というかなんか疲れたからなんか飲むか　自動販売機はどこかなっと

数十秒後戻ってくるとのどか達がいなかった

今後のお知らせ？

八樹「とっとと始めるぞ」

山下「また雑談？」

八樹「いや、今回はちょっと違うぞ」

豪徳寺「何をするんだ？」

八樹「題名の通りだ」

山下「今後お知らせ？」

八樹「ああ　ぶっちゃけると更新速度が若干落ちることだ　週３回更新できればいいほうだと思ってくれ　ちなみにこういう雑談系は単行本一冊分が終わるごとに一回いれるからね　多分」

山下「それだけ？」

八樹「そう言うだろうとおもってなんかネタを持ってきたぞ　まあその前にゲスト紹介だ
今回のゲストはなんと！　ラオ・バイロンだ！」

豪徳寺「だれだよ　そいつは？」

八樹「単行本２２巻の最初の方に出てくるやつだ」

ラオ「まあそういうこった　よろしくな」

豪徳寺「というか次はメジャーなキャラを呼ぶんじゃなかったのか？」

八樹「いやぁ　本当は朝倉を呼ぶ予定だったがキャンセルされた」

山下「へぇ～　結局何を始めるの？」

八樹「なーにちょっとしたことだ　多分すぐ終わる　ちなみにどうでもいいが作者はチョロＱＨＧ３というゲームにはまっている」

ラオ「なんだよそれは？」

豪徳寺「たしか発売日は２００２年の１２月１２日発売のゲームソフトだな」

八樹「まあそれは置いといて　やることは必殺技を決めることだ」

豪徳寺「だれのだよ？」

八樹「お前ら四人組のだ　豪徳寺はもう真・漢魂だし中村はかめはとかあるが大豪院と山下に至っては技すら出してないからな」

ラオ「つーか俺を呼んだ意味はあるのか？」

八樹「悪い　ぶっちゃけあんまり意味ない」

ラオ「おい！　なら呼ぶなよ！」

八樹「別にいいじゃねーか　自由拳闘士なんだからさ」

ラオ「暇だったからべつにいいけどよ」

八樹「ならとっとと必殺技でも決めるぞ　まずは山下からだな」

山下「う～ん基本寝技が得意なんだけどね」

八樹「なら腕挫十字固（うでひしぎじゅうじがため）でいいか」

山下「できるけど決めるの早すぎじゃないか！？」

豪徳寺「ちなみに腕挫十字固とは格闘技で最も有名で頻度多く極る関節技。関節技9本のひとつに数えられる。

相手の肘関節を逆に伸ばして極める、いわゆるアームロックの一種である。柔道、柔術、サンボ、総合格闘技、プロレスリング　合気道（一部道場）などで使用されるほか、世界各国の軍隊などにおいても徒手格闘術の技として訓練されている。（ウィキペディアより）」

八樹「なら次は大豪院だな　実際ほとんどセリフもないし戦いを見た限りでは拳法使いだから

うーん……蟷螂拳（とうろうけん）でいっか」

ラオ「適当すぎるな　お前は」

豪徳寺「ちなみに蟷螂拳は俺もあんまりわからないんだよな」

八樹「おいこれでも武術研究部の部長だろ？」

豪徳寺「俺でも分からないことだってたまにあるんだ」

八樹「ま、俺も分からないんだけどな　名前くらいしかわからん」

ラオ「よくわからんが終わりか？」

山下「たぶんね」

八樹「そうだな　短いがまあいいか　ちなみに次こそはメジャーなキャラを呼ぶことにするよ」

豪徳寺「それじゃ　さよなら！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8312x/

魔法先生ネギま！　例のやつがやってきた？

2012年1月8日22時46分発行